

を施工することに伴い、1億6632万円の工事請負契約を締結しようとするもので、全員一致で可決されました。



岡野幹線排水路

補正予算

▽平成29年度館林市一般会計補正予算(第4号) 1億1765万1000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ277億7915万7000円とするもので、全員一致で可決されました。
▽平成29年度館林市介護保険特別会計補正予算(第1号) 1238万8000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ65億8326万3000円とするもの

で、全員一致で可決されました。

報告

▽平成28年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告について 地方公共団体の財政の健全化に関する法律において、財政の早期健全化及び財政の再生並びに公営企業の経営の健全化を図るべき基準が設けられ、具体的な指標である実質赤字比率及び連結実質赤字比率については、実質収支及び連結実質収支が黒字であることから赤字比率はなく、実質公債費比率は4・5%、将来負担比率は92・6%であり、また、公営企業会計における資金不足比率については、資金不足額が生じていないことから資金不足比率はなく、全ての健全化判断比率及び公営企業会計における資金不足比率ともに、国の判断基準以下の数値となつているとの報告がありました。



平成28年度決算

▽平成28年度館林市歳入歳出決算の認定について 一般会計決算の概要は、最終予算額286億3833万6000円に対し、歳入決算額は286億4788万6709円で、予算に対する収入率は100・03%です。また、歳出決算額は267億8215万5958円で、その執行率は93・52%となり、歳入歳出差引残額は18億6573万751円となります。このうち、翌年度へ繰り越すべき財源943万円を差し引いた実質収支額は18億5630万751円となり、このうち14億円を財政調整基金に、3000万円を職員退職手当基金に積立てし、翌年度へ繰り越すべき財源を含む4億3573万751円を、翌年度へ繰り越しました。
特別会計の決算は、国民健康保険特別会計が、歳入99億1387万3748円、歳出97億4622万167

8円。下水道事業特別会計が、歳入18億1072万8277円、歳出16億8791万4103円。農業集落排水事業特別会計が、歳入5463万8411円、歳出4747万8823円。介護保険特別会計が、歳入59億4720万1864円、歳出57億2898万702円。後期高齢者医療特別会計が、歳入8億4443万円、計が、歳入8億4443万7178円、歳出7億9236万8130円で、いずれの特別会計も黒字決算となりました。
本決算について、日本共産党館林市議団から反対討論が行われ、採決の結果、賛成多数で認定されました。

議員提出議案

▷市町村道路関係予算の確保及び道路整備に係る補助率等のかさ上げ措置の継続を求める意見書(全員一致で可決)

【全文】道路は人々の生活を支え、地方の自立・活性化・生活維持に最も基本的な社会基盤であり、特に市町村道は、地域住民に密接な施設であるとともに、安全・安心の確保のため、必要不可欠な社会基盤でもある。しかし、群馬県内の市町村道の改良率は全国的にも低い状況にあり、依然として地域生活の維持には道路整備が必要不可欠である。

また、平成26年7月道路法施行規則の改正により、橋梁やトンネルなどの点検が義務付けられ、今後は新たに老朽化対策費の増大が見込まれており、計画的な事業進捗を図るためには十分な予算確保が必要となっている。

つきましては、財政状況が厳しい市町村の道路事業を着実に進捗させるため、平成30年度の予算編成にあたり、下記事項を講じるよう強く要望する。

記

- 1 市町村道路整備事業が計画的に進捗できるよう、必要な交付金予算の事業費総額を持続的に確保すること。
- 2 長期安定的に道路整備が進められるよう、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の補助率等のかさ上げ措置を平成30年度以降も継続すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

提出先 = 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣